

# 在院および退院患者の状況

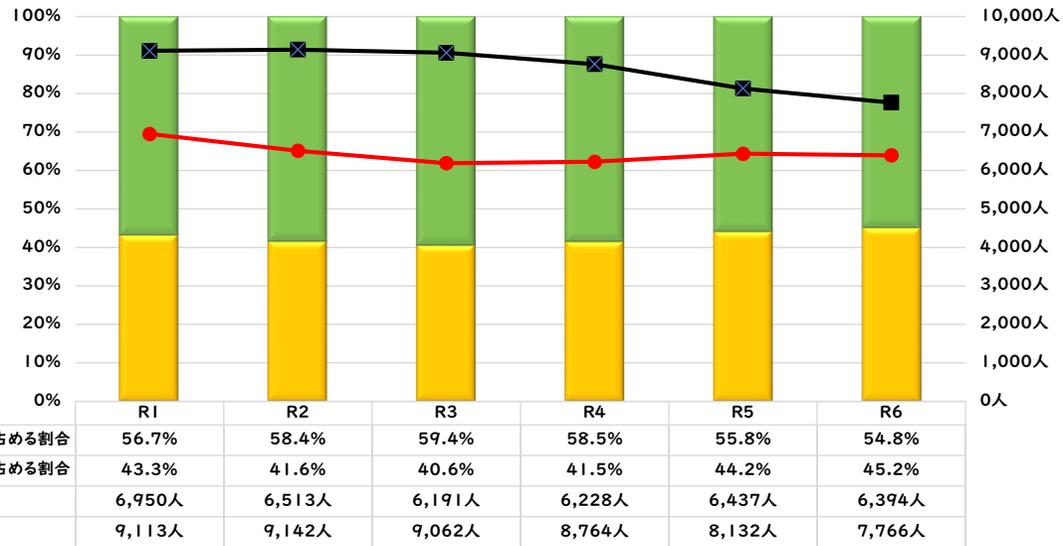
大阪府と泉州圏域の比較 ～高齢期の状況を中心に～

引用：大阪府精神科在院患者調査（令和元年度～令和6年度）  
大阪府精神科退院患者調査（令和5年度）

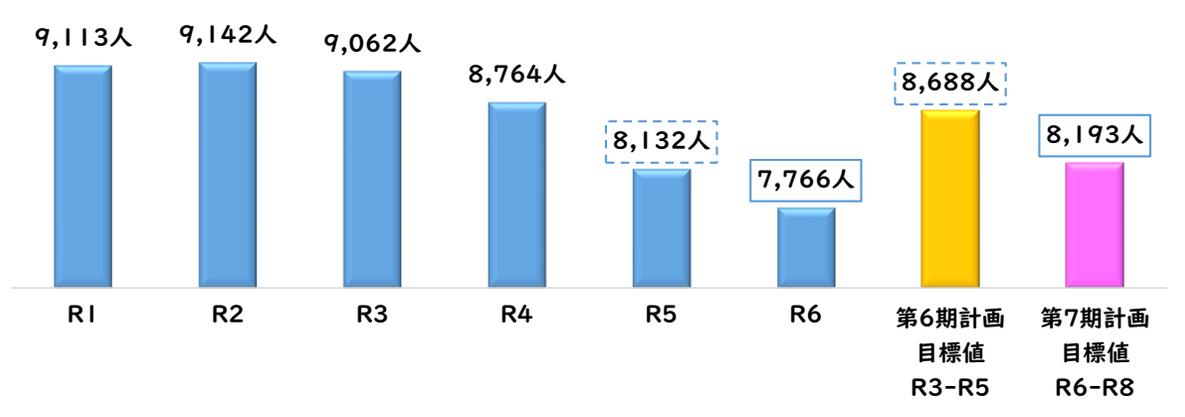
# 在院期間別の推移

## ①大阪府

在院期間別の推移(大阪府)

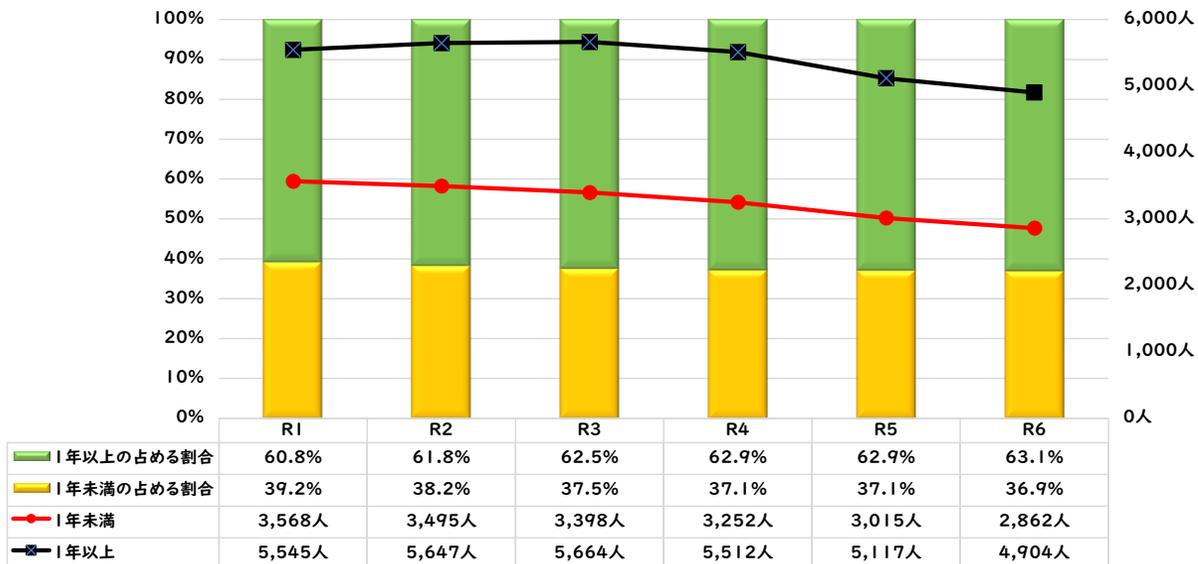


1年以上長期入院患者数の推移(大阪府)

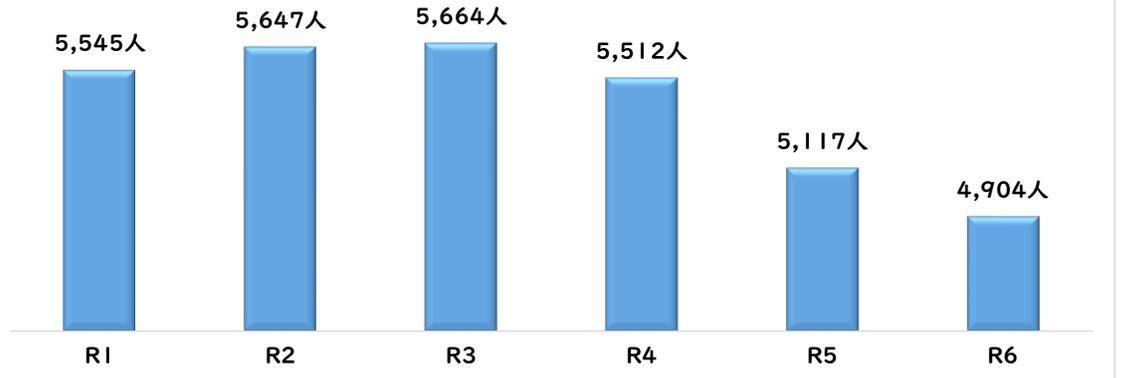


R1→R6 減少率 14.8%

在院期間別の推移(大阪府 65歳以上)



1年以上長期入院患者数の推移(大阪府 65歳以上)

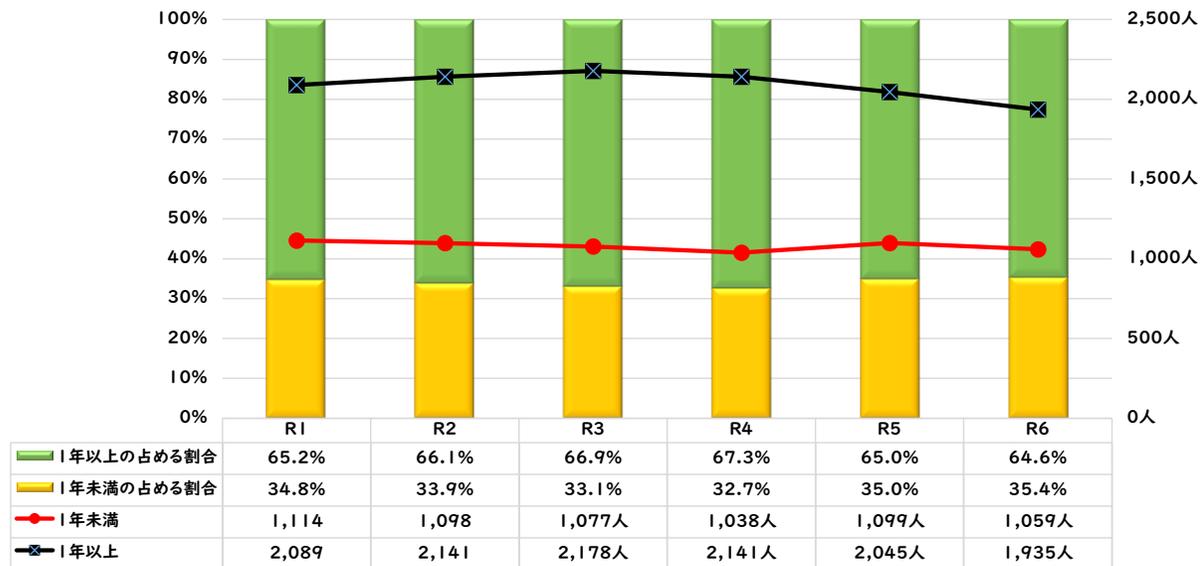


R1→R6 減少率 11.6%

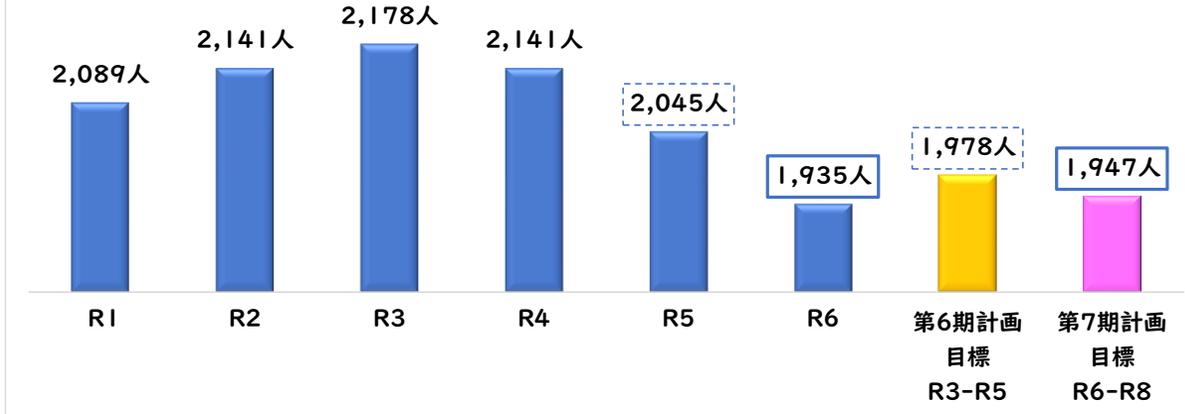
大阪府における1年以上の長期入院患者については、R2以降減少傾向となっており、令和5年度に第6期障がい福祉計画などの目標値を達成している。

高齢期の長期入院患者は、コロナ禍で増えた後、R3より減少に転じた。

在院期間別の推移(泉州圏域 入院時住所地)

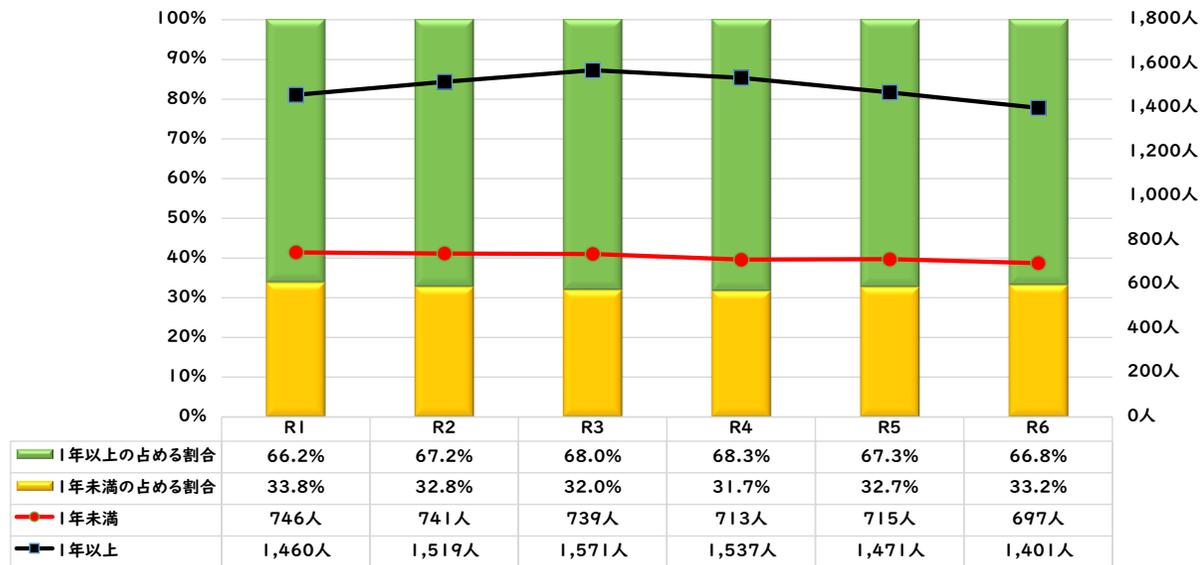


1年以上長期入院患者数の推移(泉州圏域泉州圏域 入院時住所地)

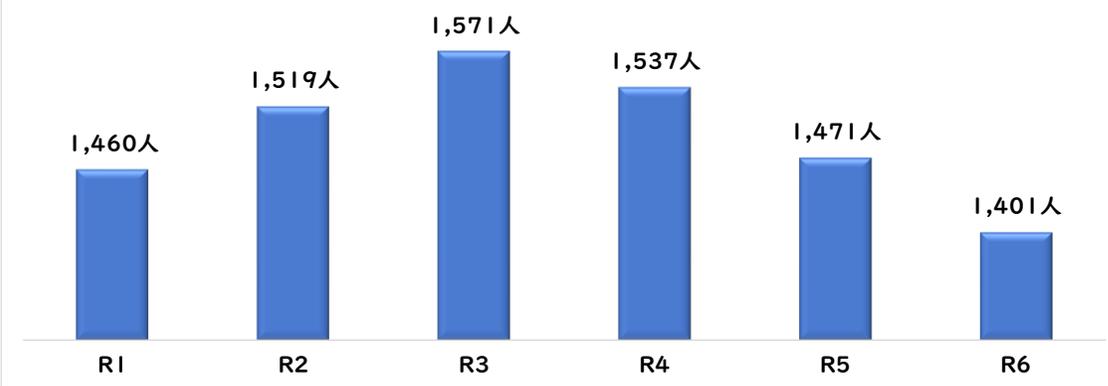


R1→R6 減少率 7.4%

在院期間別の推移(泉州圏域 入院時住所地\_65歳以上)



1年以上長期入院患者数の推移(泉州圏域 入院時住所地\_65歳以上)



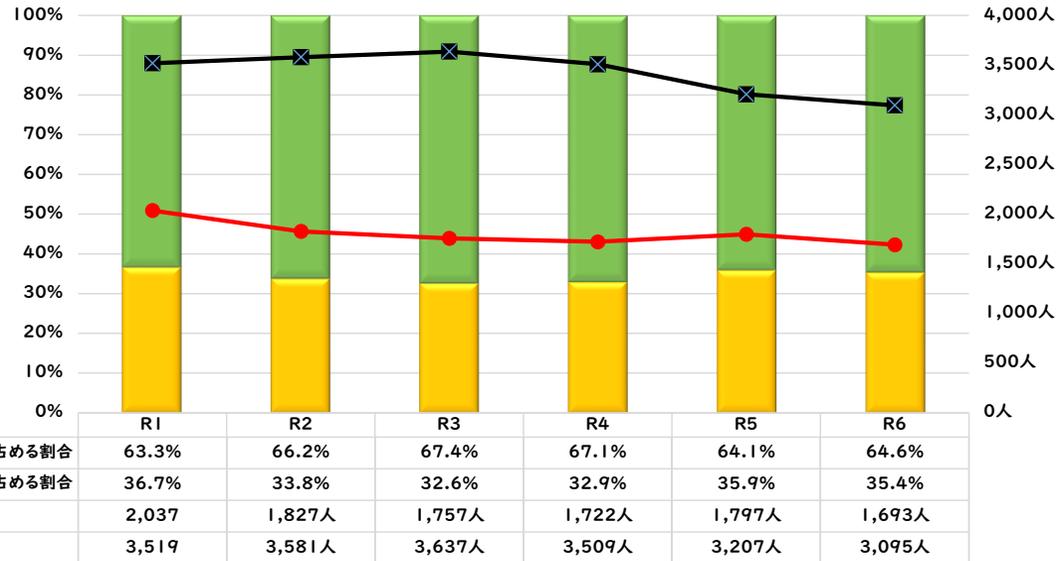
R1→R6 減少率 4.0%

泉州圏域住民(入院時住所地)においては、コロナ禍で一時長期入院が増加。その後R3より減少に転じた。R5は泉州圏域全体(目標値合計)における計画目標の達成に至らなかったが、第7期計画目標は達成の見込みが出ている。高齢期の長期入院は、コロナ禍の増加が顕著で、R1からR6の減少率が約4%と低調となっている。

# 在院期間別の推移

## ③泉州圏域 病院所在地

在院期間別の推移(泉州圏域 病院所在地)

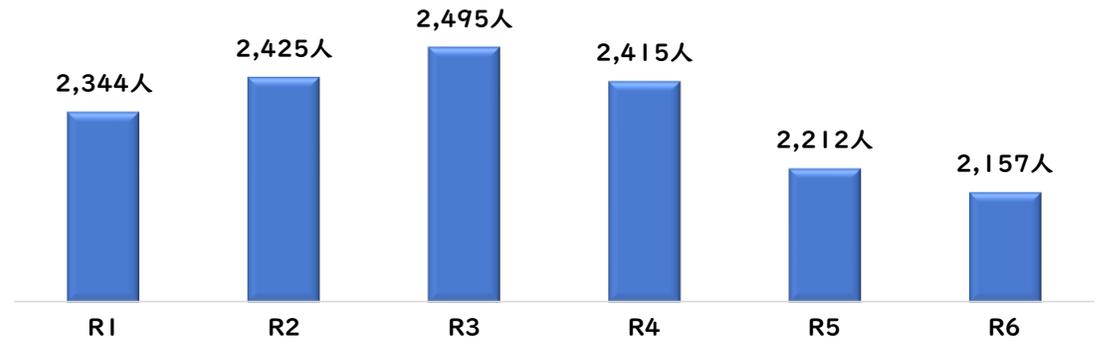
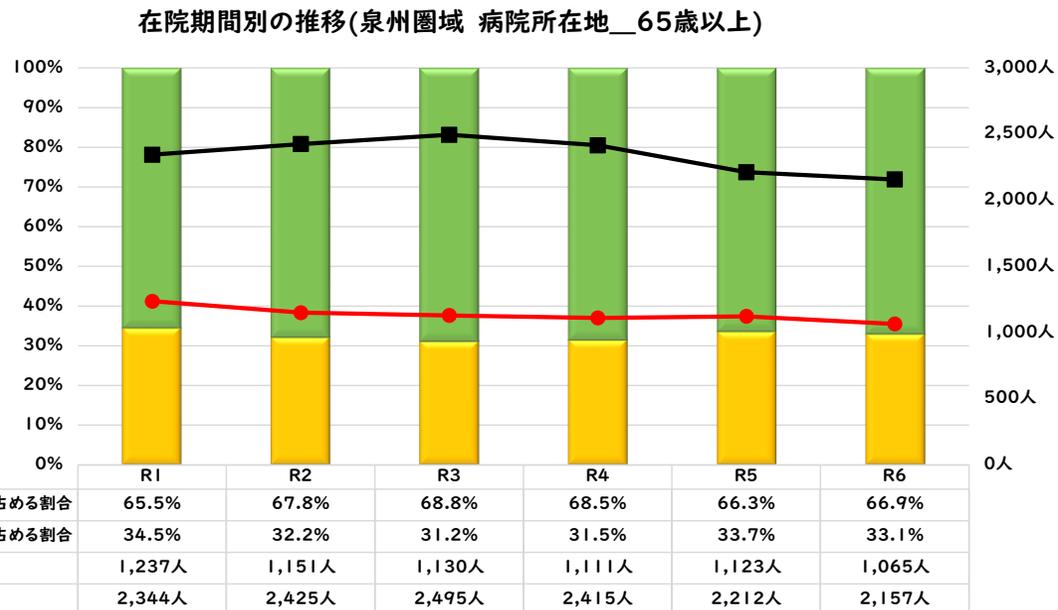


1年以上長期入院患者数の推移(泉州圏域 病院所在地)



R1→R6 減少率 12.0%

1年以上長期入院患者数の推移(泉州圏域 病院所在地\_65歳以上)



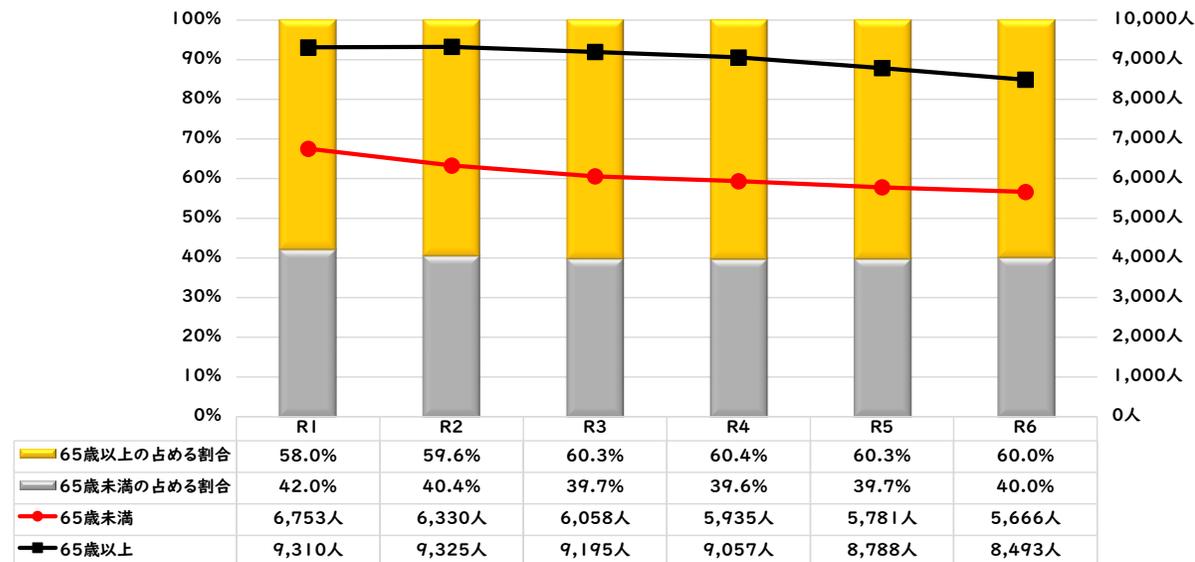
R1→R6 減少率 8.0%

泉州圏域の病院における入院患者においても、長期入院はコロナ禍で増加し、R3から減少に転じており、R1からR6の減少率は泉州圏域住民の入院患者の減少率に比べて、大きくなっている。  
高齢期の長期入院患者のR1からR6の減少率は泉州圏域の住民よりは高くなっている。

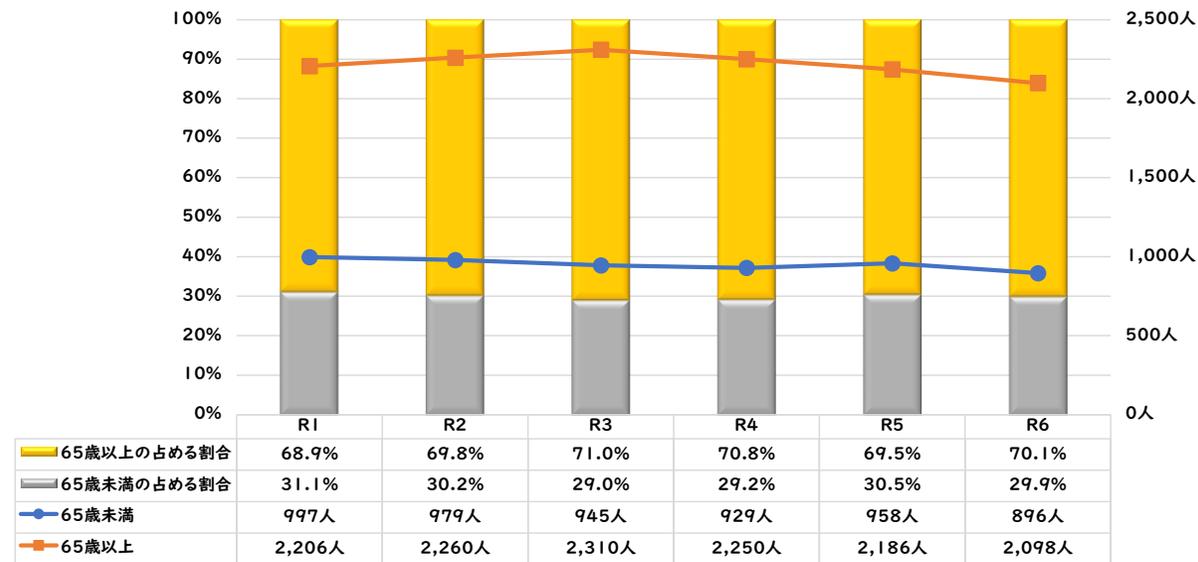
# 年齢区分別の推移

## ④大阪府 & 泉州圏域 65歳未満・以上

年齢区分別の推移(大阪府)

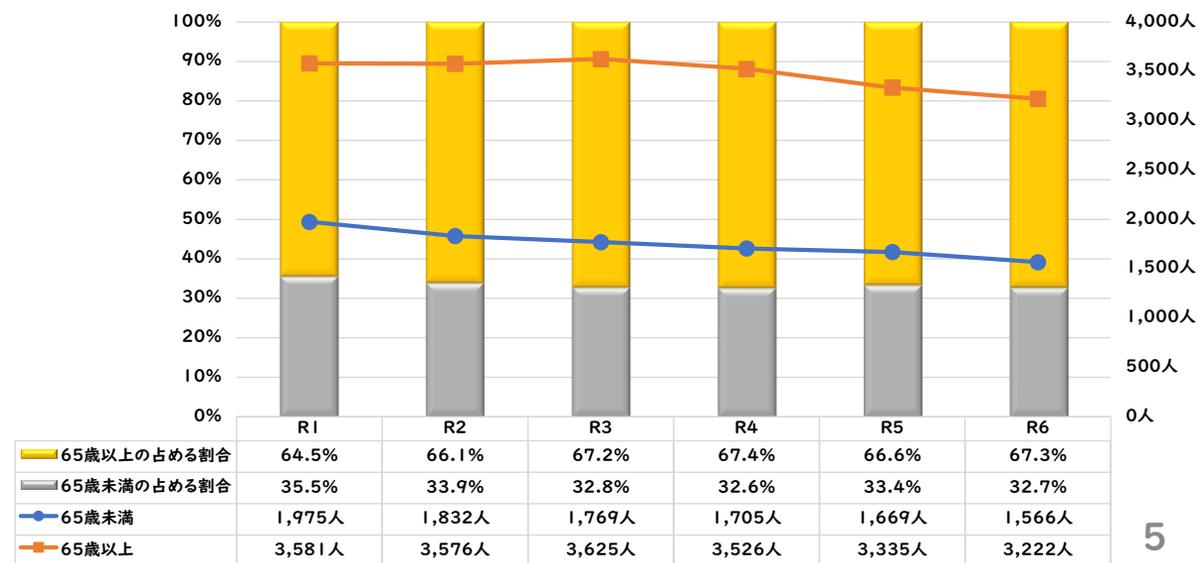


年齢区分別の推移(泉州圏域 入院時住所地)



特に、泉州圏域の住民(入院時住所地)においては、高齢期の占める割合が約70%を推移しており、大阪府全体に比べると10ポイント程度高い。  
泉州圏域の病院の入院患者も大阪府全体に比べると高齢者が多い。

年齢区分別の推移(泉州圏域 病院所在地)



# 退院患者調査結果《1年以上入院者の退院先》

(調査期間:令和5年9月1日~11月30日)

令和5年度退院患者調査 (調査期間:令和5年9月1日~11月30日) 大阪府										
退院先	人数	割合①	割合②	うち、65歳以上			うち、65歳未満			
				人数	割合①	割合②	人数	割合①	割合②	
自宅	単身	23	11.8%	3.9%	5	5.2%	1.2%	18	18.4%	10.8%
	家族との同居	28	14.4%	4.8%	13	13.4%	3.1%	15	15.3%	9.0%
障がい者 福祉関係	障がい者向けグループホーム	40	20.5%	6.8%	1	1.0%	0.2%	39	39.8%	23.4%
	宿泊型自立訓練事業所	5	2.6%	0.9%	0	0.0%	0.0%	5	5.1%	3.0%
	障がい者(児)入所支援施設	2	1.0%	0.3%	0	0.0%	0.0%	2	2.0%	1.2%
高齢者 福祉関係	特別養護老人ホーム(介護老人保健福祉施設)	13	6.7%	2.2%	13	13.4%	3.1%	0	0.0%	0.0%
	養護老人ホーム	6	3.1%	1.0%	5	5.2%	1.2%	1	1.0%	0.6%
	ケアハウス(軽費老人ホーム)	1	0.5%	0.2%	1	1.0%	0.2%	0	0.0%	0.0%
	有料老人ホーム	43	22.1%	7.3%	30	30.9%	7.1%	13	13.3%	7.8%
	介護老人保健施設	13	6.7%	2.2%	13	13.4%	3.1%	0	0.0%	0.0%
	介護療養型医療施設・介護医療院	5	2.6%	0.9%	5	5.2%	1.2%	0	0.0%	0.0%
	サービス付き高齢者住宅	5	2.6%	0.9%	4	4.1%	1.0%	1	1.0%	0.6%
その他 ・不明	高齢者向けグループホーム	4	2.1%	0.7%	4	4.1%	1.0%	0	0.0%	0.0%
	救護施設	3	1.5%	0.5%	0	0.0%	0.0%	3	3.1%	1.8%
	その他	4	2.1%	0.7%	3	3.1%	0.7%	1	1.0%	0.6%
	不明・不定	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	小計	195	100.0%	33.2%	97	100.0%	23.0%	98	100.0%	58.7%
転院	精神科へ	36	---	6.1%	21	---	5.0%	15	---	9.0%
	他科へ	173	---	29.4%	134	---	31.8%	39	---	23.4%
死亡	死亡	184	---	31.3%	169	---	40.1%	15	---	9.0%
	合計	588	---	100.0%	421	---	100.0%	167	---	100.0%

令和5年度退院患者調査 (調査期間:令和5年9月1日~11月30日) 泉州圏域(入院時住所地)										
退院先	人数	割合①	割合②	うち、65歳以上			うち、65歳未満			
				人数	割合①	割合②	人数	割合①	割合②	
自宅	単身	5	15.6%	3.2%	0	0.0%	0.0%	5	35.7%	17.9%
	家族との同居	4	12.5%	2.6%	2	11.1%	1.6%	2	14.3%	7.1%
障がい者 福祉関係	障がい者向けグループホーム	5	15.6%	3.2%	0	0.0%	0.0%	5	35.7%	17.9%
	宿泊型自立訓練事業所	1	3.1%	0.6%	0	0.0%	0.0%	1	7.1%	3.6%
	障がい者(児)入所支援施設	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	特別養護老人ホーム(介護老人保健福祉施設)	1	3.1%	0.6%	1	5.6%	0.8%	0	0.0%	0.0%
高齢者 福祉関係	養護老人ホーム	1	3.1%	0.6%	1	5.6%	0.8%	0	0.0%	0.0%
	ケアハウス(軽費老人ホーム)	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	有料老人ホーム	8	25.0%	5.2%	7	38.9%	5.6%	1	7.1%	3.6%
	介護老人保健施設	3	9.4%	1.9%	3	16.7%	2.4%	0	0.0%	0.0%
	介護療養型医療施設・介護医療院	3	9.4%	1.9%	3	16.7%	2.4%	0	0.0%	0.0%
	サービス付き高齢者住宅	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	高齢者向けグループホーム	1	3.1%	0.6%	1	5.6%	0.8%	0	0.0%	0.0%
その他 ・不明	救護施設	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	その他	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	不明・不定	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	小計	32	100.0%	20.8%	18	100.0%	14.3%	14	100.0%	50.0%
転院	精神科へ	5	---	3.2%	3	---	2.4%	2	---	7.1%
	他科へ	55	---	35.7%	45	---	35.7%	10	---	35.7%
死亡	死亡	62	---	40.3%	60	---	47.6%	2	---	7.1%
	合計	154	---	100.0%	126	---	100.0%	28	---	100.0%

令和5年度退院患者調査 (調査期間:令和5年9月1日~11月30日) 泉州圏域(病院所在地)										
退院先	人数	割合①	割合②	うち、65歳以上			うち、65歳未満			
				人数	割合①	割合②	人数	割合①	割合②	
自宅	単身	6	11.1%	2.6%	1	3.8%	0.6%	5	17.9%	9.3%
	家族との同居	7	13.0%	3.0%	3	11.5%	1.7%	4	14.3%	7.4%
障がい者 福祉関係	障がい者向けグループホーム	12	22.2%	5.2%	0	0.0%	0.0%	12	42.9%	22.2%
	宿泊型自立訓練事業所	3	5.6%	1.3%	0	0.0%	0.0%	3	10.7%	5.6%
	障がい者(児)入所支援施設	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
高齢者 福祉関係	特別養護老人ホーム(介護老人保健福祉施設)	1	1.9%	0.4%	1	3.8%	0.6%	0	0.0%	0.0%
	養護老人ホーム	1	1.9%	0.4%	1	3.8%	0.6%	0	0.0%	0.0%
	ケアハウス(軽費老人ホーム)	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	有料老人ホーム	12	22.2%	5.2%	10	38.5%	5.6%	2	7.1%	3.7%
	介護老人保健施設	4	7.4%	1.7%	4	15.4%	2.2%	0	0.0%	0.0%
	介護療養型医療施設・介護医療院	4	7.4%	1.7%	4	15.4%	2.2%	0	0.0%	0.0%
	サービス付き高齢者住宅	2	3.7%	0.9%	1	3.8%	0.6%	1	3.6%	1.9%
その他 ・不明	高齢者向けグループホーム	1	1.9%	0.4%	1	3.8%	0.6%	0	0.0%	0.0%
	救護施設	1	1.9%	0.4%	0	0.0%	0.0%	1	3.6%	1.9%
	その他	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	不明・不定	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
	小計	54	100.0%	23.2%	26	100.0%	14.5%	28	100.0%	51.9%
転院	精神科へ	5	---	2.1%	3	---	1.7%	2	---	3.7%
	他科へ	79	---	33.9%	64	---	35.8%	15	---	27.8%
死亡	死亡	95	---	40.8%	86	---	48.0%	9	---	16.7%
	合計	233	---	100.0%	179	---	100.0%	54	---	100.0%

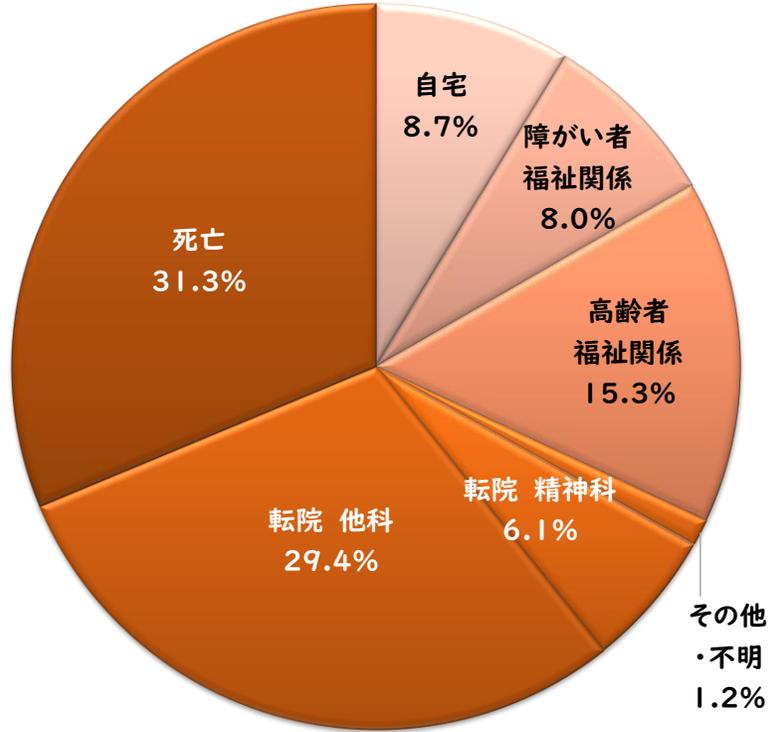
次からのスライドのグラフは「割合②」を比較したもの

# 1年以上入院者の退院先

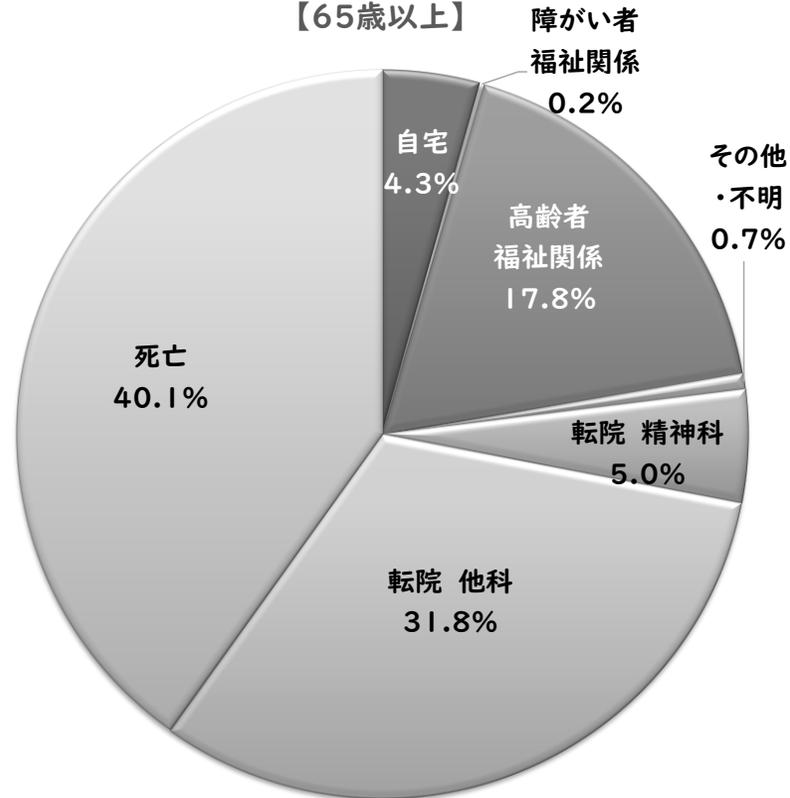
## ①大阪府

### 1年以上入院者の退院先(大阪府) (調査期間:令和5年9月1日~11月30日)

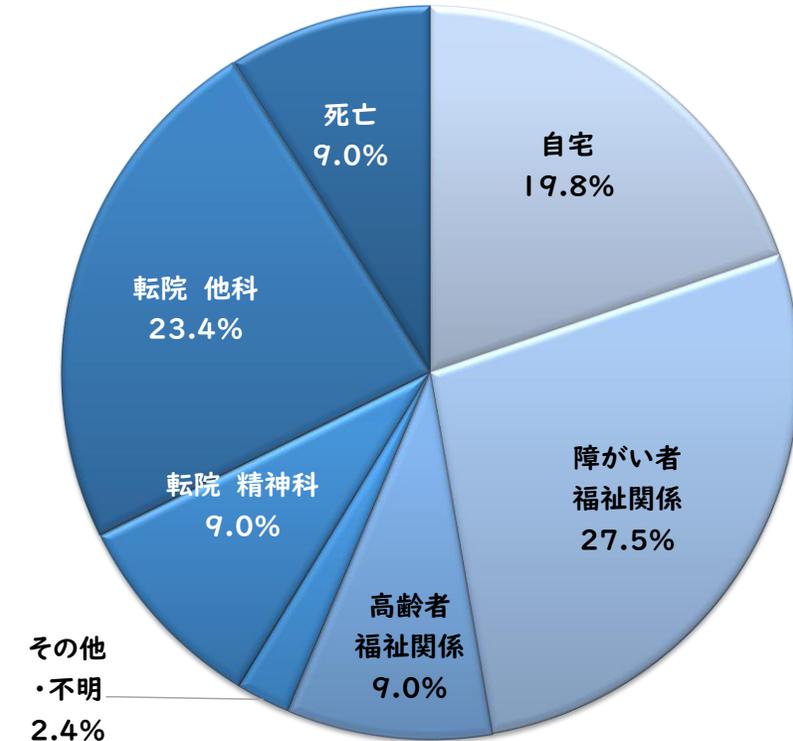
R5 患者全体



【65歳以上】



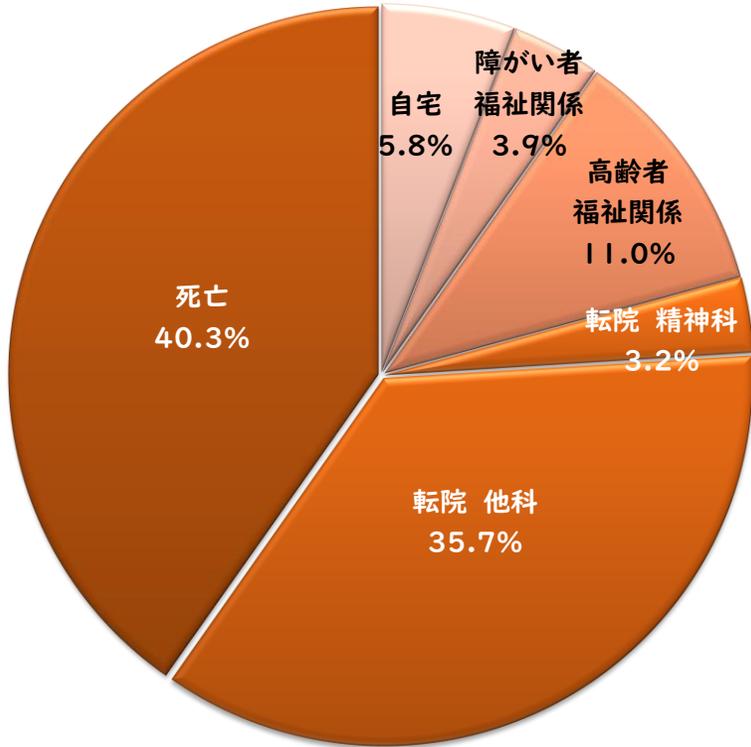
【65歳未満】



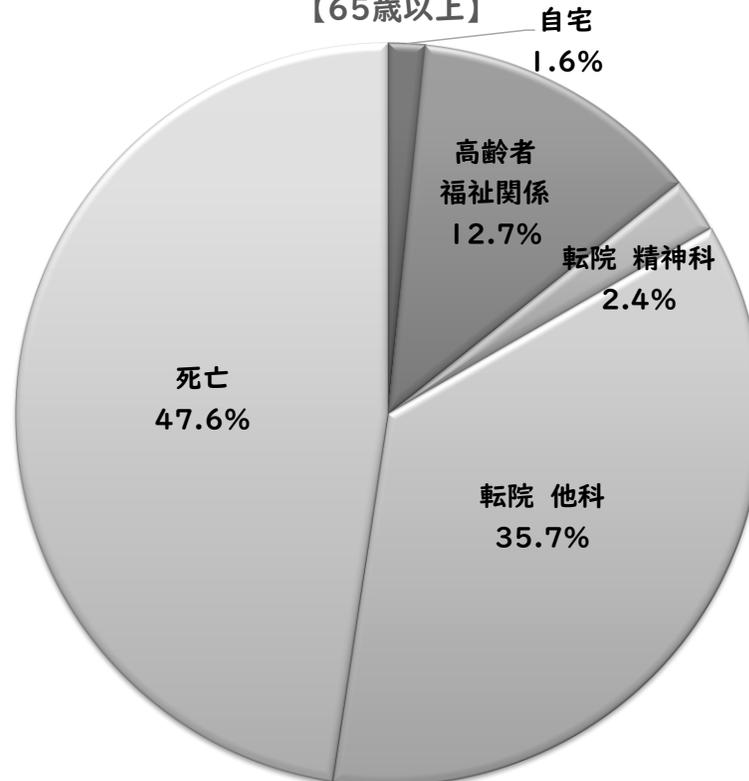
大阪府では、1年以上入院していた患者の退院先のうち、全体では約31%が死亡、約29%が他科への転院である。特に、高齢期は、死亡が約40%を占め、自宅や施設等への地域移行は約22%である。65歳未満の地域移行者の割合は、約56%であった。

1年以上入院者の退院先(泉州圏域 入院時住所地) (調査期間:令和5年9月1日~11月30日)

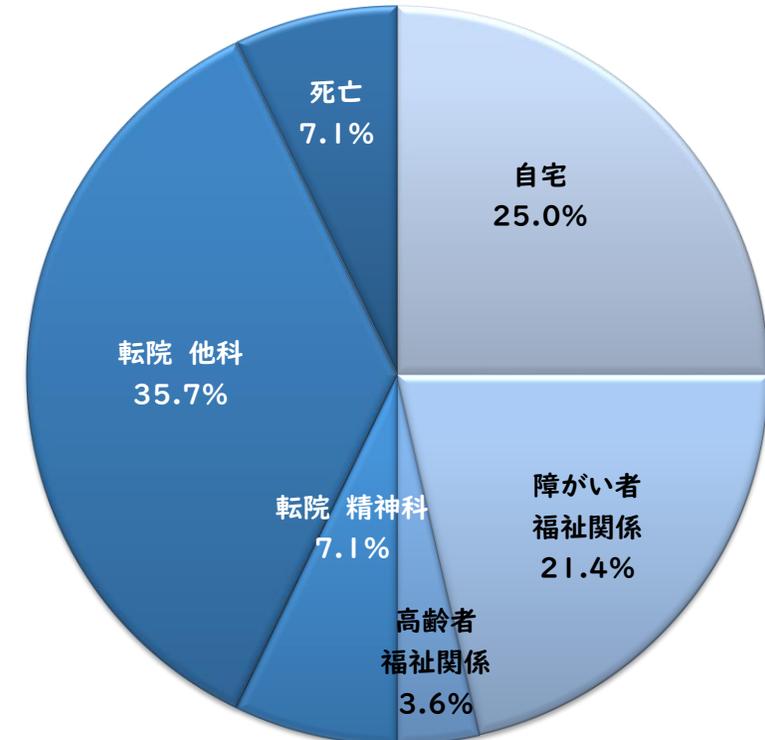
R5 患者全体



【65歳以上】



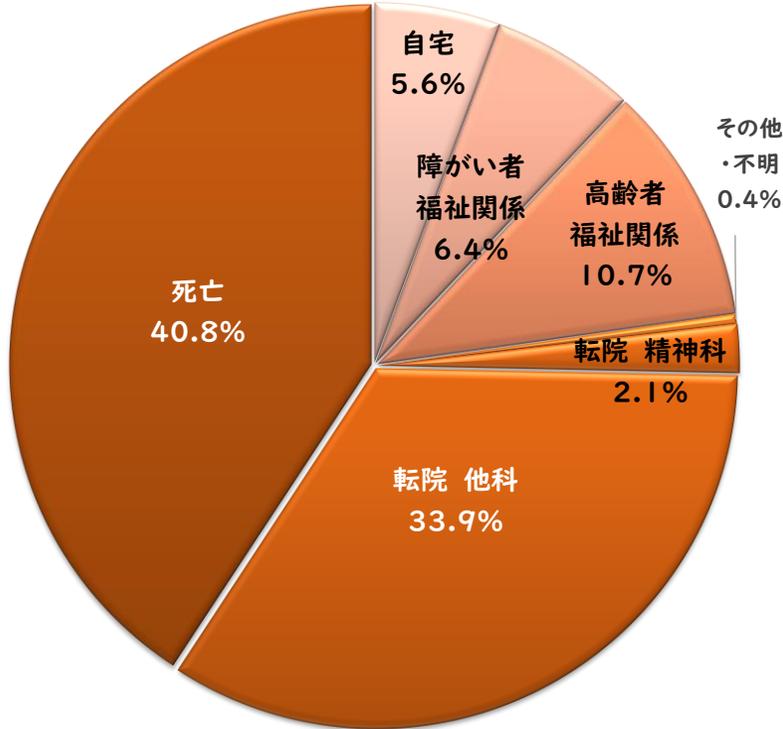
【65歳未満】



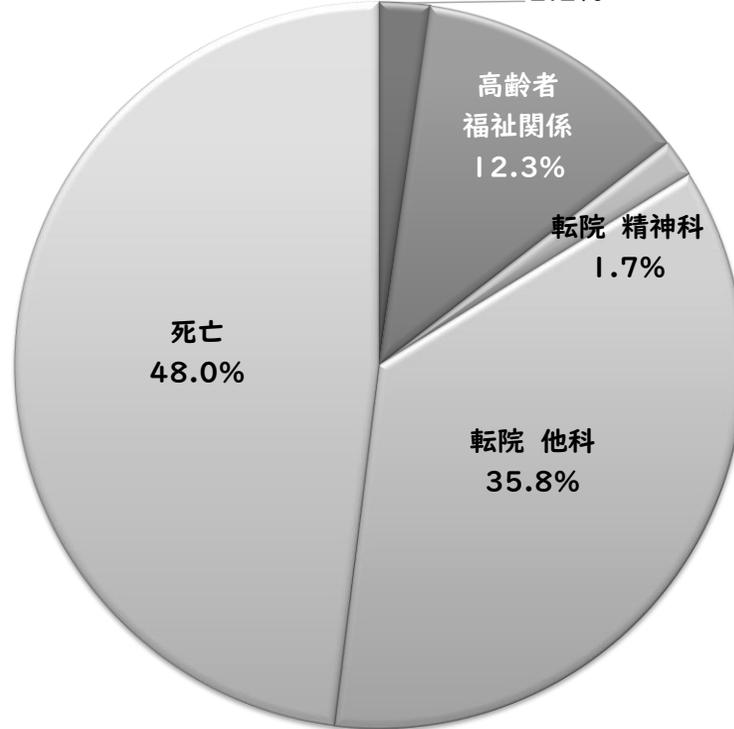
泉州の住民(入院時住所地)で、1年以上入院していた人の退院先は、全体では約40%が死亡だが、高齢期は約48%が死亡退院である。自宅や施設等への地域移行は、約14%で、特に自宅への退院は2%を下回っている。65歳未満の地域移行は約50%で、大阪府全体と比較するとやや低調である。

### 1年以上入院者の退院先(泉州圏域 病院所在地) (調査期間:令和5年9月1日~11月30日)

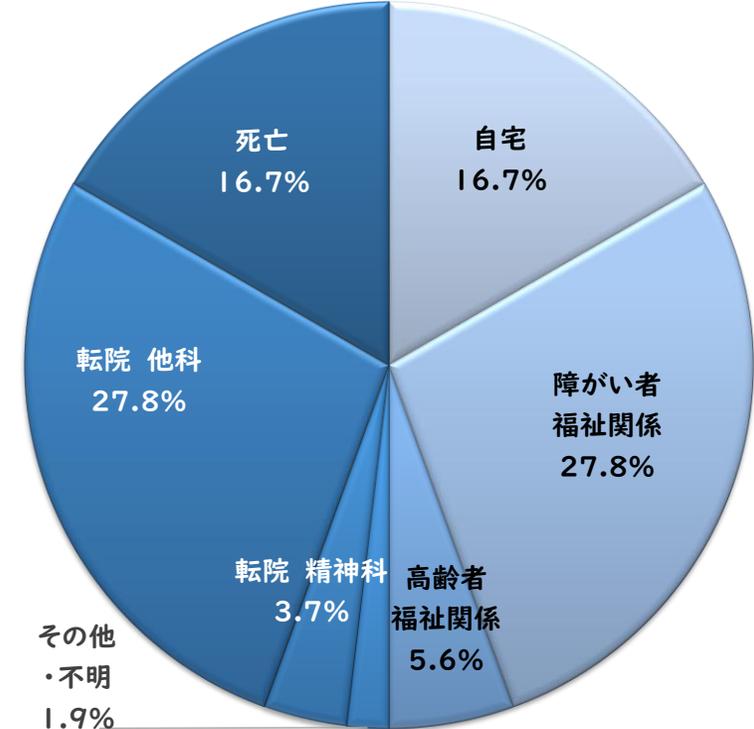
R5 患者全体



【65歳以上】



【65歳未満】

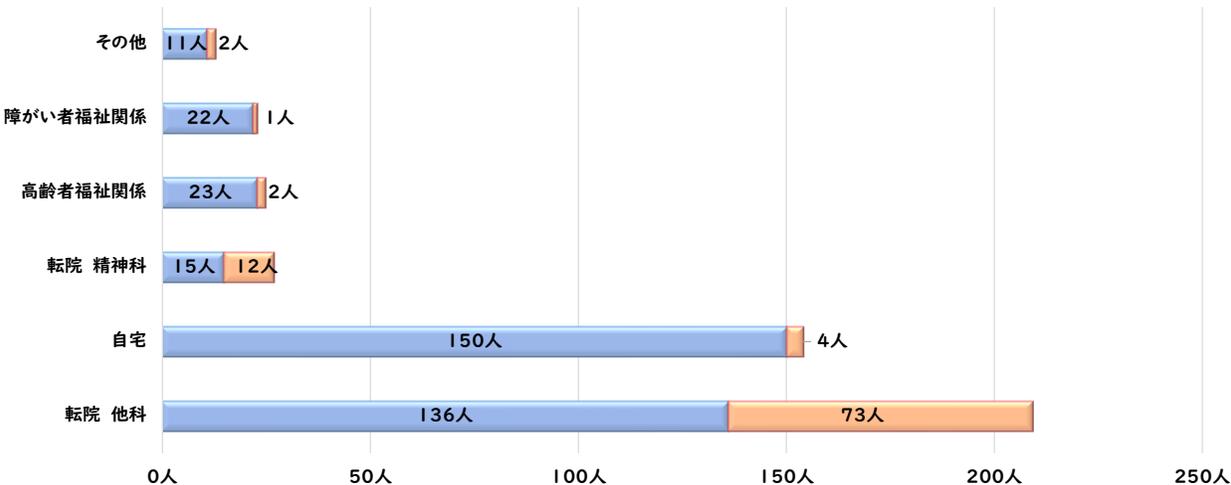


泉州の病院に1年以上入院していた人の退院先も同じく、全体で約41%が死亡、高齢期の死亡の割合は約48%となっていた。自宅や施設等への地域移行は約15%で、自宅への退院も約2%と、割合としては、住民とほぼ同レベルであった。65歳未満の地域移行も約50%で、大阪府全体より低調だった。また、65歳未満の死亡退院が約17%（大阪府全体の65歳未満の死亡事例の60%を占める）と、少し高い傾向が見られた。

# 再入院前の退院先（調査期間中の再入院者について） ①大阪府（調査期間：令和5年9月1日～11月30日）

## 再入院前の退院先（調査期間中の再入院者について） 大阪府

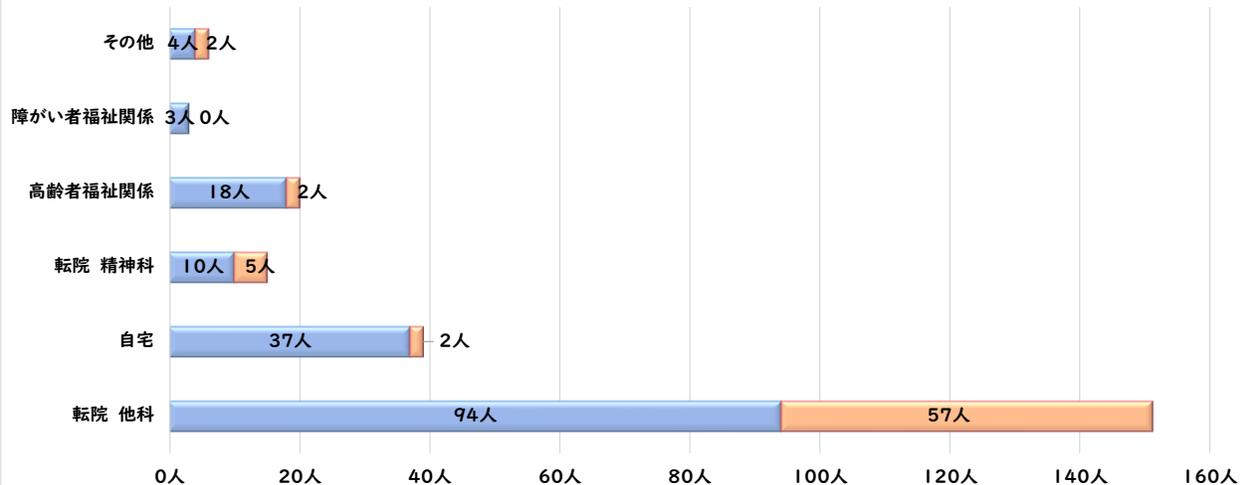
再入院前の退院先(大阪府全体)



	転院 他科	自宅	転院 精神科	高齢者福祉関係	障がい者福祉関係	その他
在院期間1年未満	136人	150人	15人	23人	22人	11人
在院期間1年以上	73人	4人	12人	2人	1人	2人

■在院期間1年未満 ■在院期間1年以上

再入院前の退院先(大阪府\_65歳以上)



	転院 他科	自宅	転院 精神科	高齢者福祉関係	障がい者福祉関係	その他
在院期間1年未満	94人	37人	10人	18人	3人	4人
在院期間1年以上	57人	2人	5人	2人	0人	2人

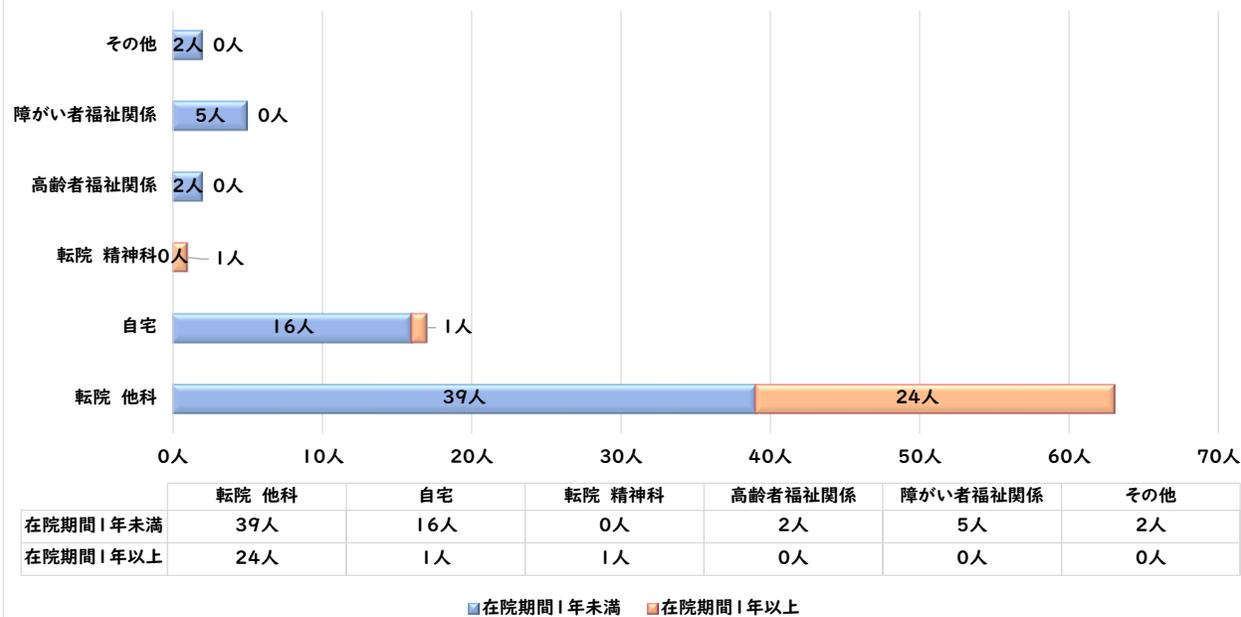
■在院期間1年未満 ■在院期間1年以上

大阪府全体において、退院患者調査の期間（3か月間）に、退院後同じ病院に再入院した人は、自宅へ退院した人と他科へ転院した人が多かった。

# 再入院前の退院先（調査期間中の再入院者について） ②泉州圏域(入院時住所地) (調査期間:令和5年9月1日～11月30日)

## 再入院前の退院先（調査期間中の再入院者について） 泉州圏域(入院時住所地)

再入院前の退院先 泉州圏域(入院時住所地)

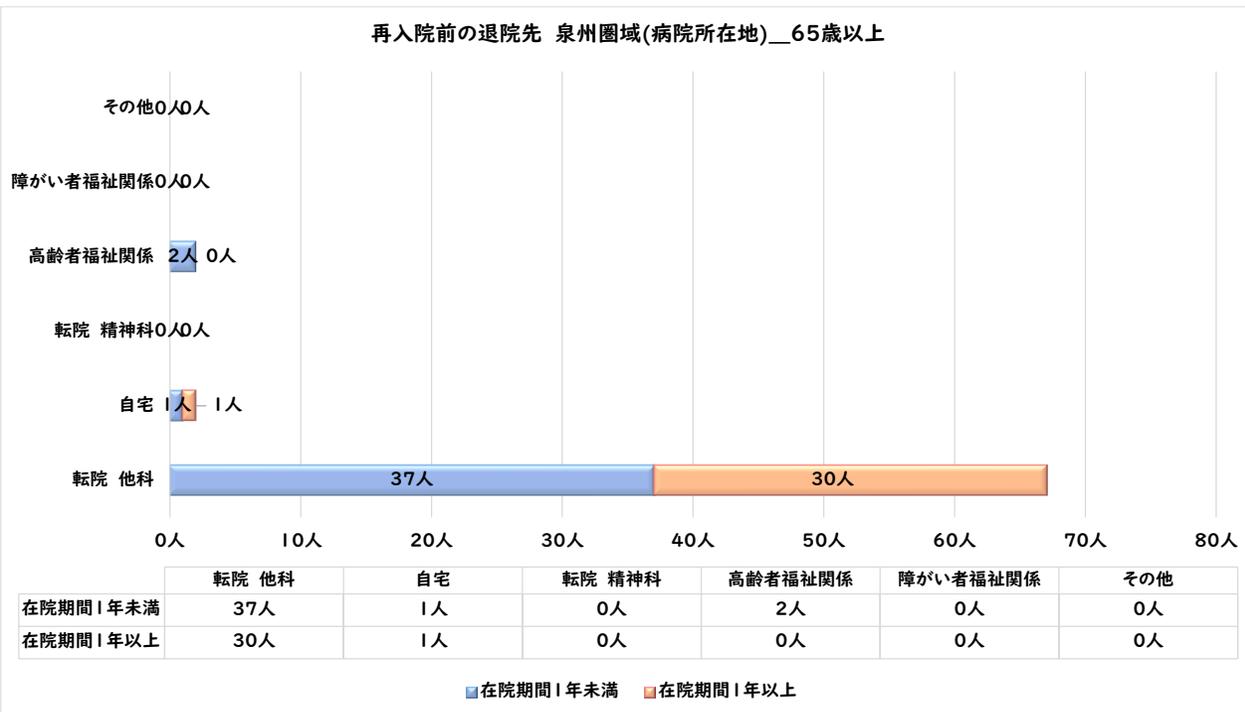
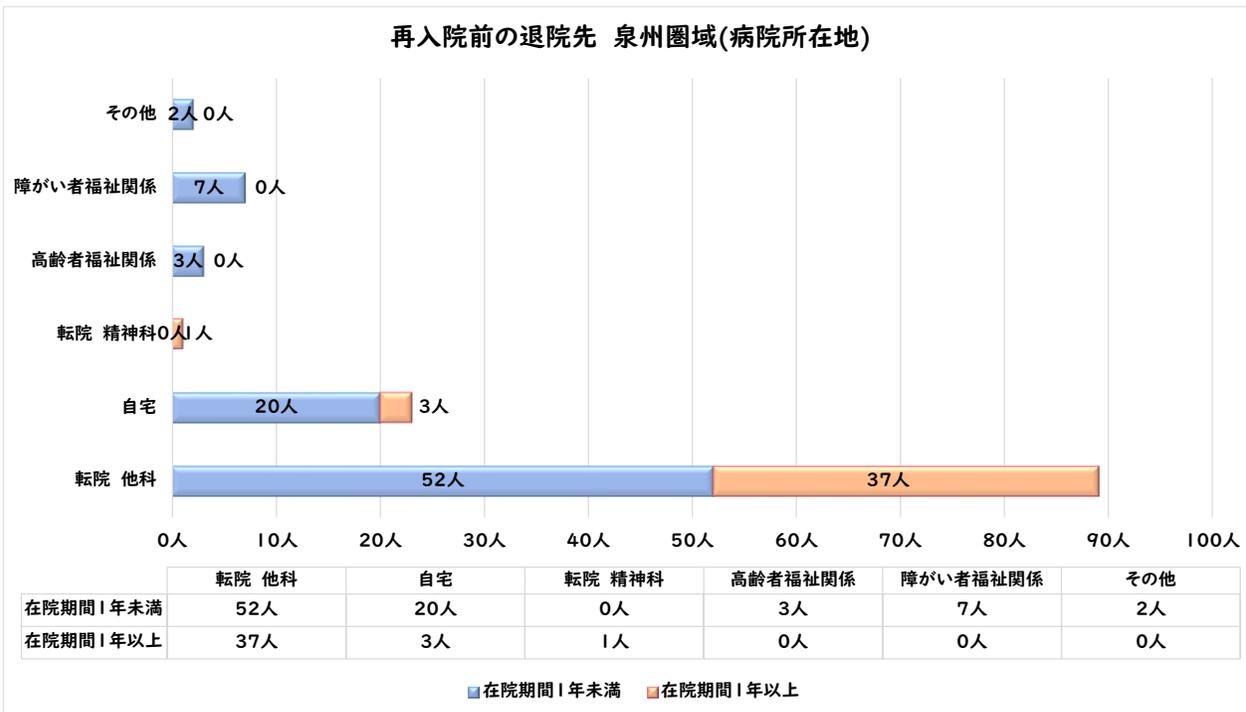


再入院前の退院先 泉州圏域(入院時住所地)\_65歳以上



1年以上入院していた65歳以上の泉州圏域の住民(入院時住所地)の再入院ケースは、すべて、他科への転院であった。

再入院前の退院先（調査期間中の再入院者について） 泉州圏域(病院所在地)



1年以上入院していた65歳以上の泉州圏域の病院の患者の再入院ケースも、ほぼ、他科への転院であった。

# 退院阻害要因(R6在院患者調査)

## ①大阪府

### 年齢区分別

退院阻害要因	65歳未満		65歳以上	
	人数	割合	人数	割合
退院阻害要因がある	612	85.7%	1,138	89.8%
退院阻害要因はない	102	14.3%	129	10.2%
<b>&lt;複数回答&gt;</b>				
割合には「退院阻害要因がある」それぞれの人数に対する割合を表示しています。				
病状は落ち着いているが、ときどき不安定な病状が見られ、そのことが退院を阻害する要因になっている	238	38.9%	369	32.4%
病識がなく通院服薬の中断が予測される	163	26.6%	290	25.5%
反社会的行動が予測される	38	6.2%	23	2.0%
退院意欲が乏しい	216	35.3%	497	43.7%
現実認識が乏しい	289	47.2%	525	46.1%
退院による環境変化への不安が強い	190	31.0%	331	29.1%
援助者との対人関係がもてない	64	10.5%	70	6.2%
家事（食事・洗濯・金銭管理など）ができない	175	28.6%	400	35.1%
家族がいない、本人をサポートする機能が実質ない	127	20.8%	269	23.6%
家族から退院に反対がある	93	15.2%	209	18.4%
住まいの確保ができない	207	33.8%	372	32.7%
生活費の確保ができない	36	5.9%	80	7.0%
日常生活を支える制度がない	27	4.4%	46	4.0%
救急診療体制がない	6	1.0%	7	0.6%
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	50	8.2%	110	9.7%
退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏しい	61	10.0%	100	8.8%
住所地と入院先の距離があり支援体制をとりにくい	14	2.3%	20	1.8%
身体的機能や状態を原因としたADLの低下がある	48	7.8%	194	17.0%
身体合併症の程度が重いなど身体面のフォローが必要であり、地域での生活が困難	24	3.9%	102	9.0%
その他の退院阻害要因がある	19	3.1%	32	2.8%

### 65歳以上

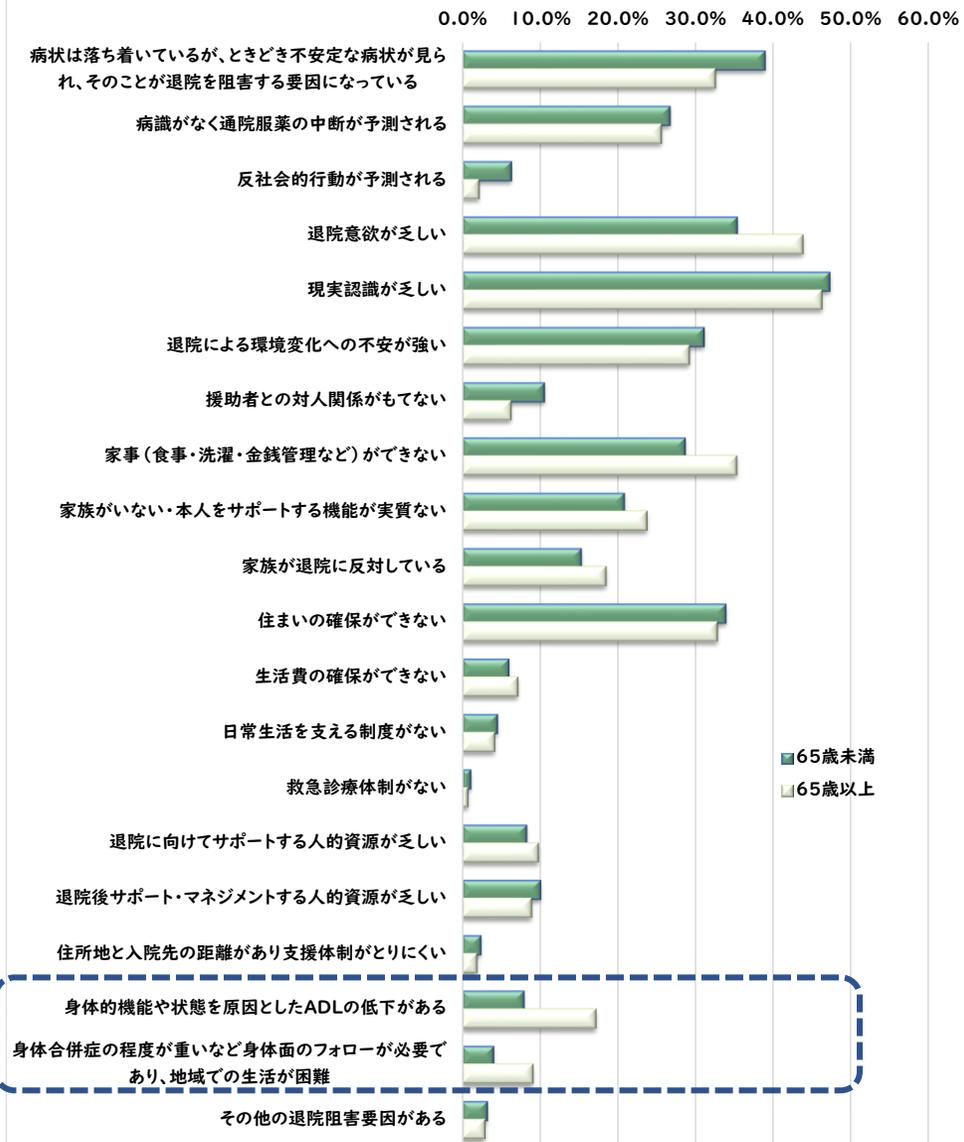
退院阻害要因	1年未満		1年以上	
	人数	割合	人数	割合
退院阻害要因がある	355	79.2%	783	95.6%
退院阻害要因はない	93	20.8%	36	4.4%
<b>&lt;複数回答&gt;</b>				
割合には「退院阻害要因がある」それぞれの人数に対する割合を表示しています。				
病状は落ち着いているが、ときどき不安定な病状が見られ、そのことが退院を阻害する要因になっている	112	31.5%	257	32.8%
病識がなく通院服薬の中断が予測される	82	23.1%	208	26.6%
反社会的行動が予測される	8	2.3%	15	1.9%
退院意欲が乏しい	113	31.8%	384	49.0%
現実認識が乏しい	152	42.8%	373	47.6%
退院による環境変化への不安が強い	89	25.1%	242	30.9%
援助者との対人関係がもてない	20	5.6%	50	6.4%
家事（食事・洗濯・金銭管理など）ができない	123	34.6%	277	35.4%
家族がいない、本人をサポートする機能が実質ない	67	18.9%	202	25.8%
家族から退院に反対がある	52	14.6%	157	20.1%
住まいの確保ができない	153	43.1%	219	28.0%
生活費の確保ができない	28	7.9%	52	6.6%
日常生活を支える制度がない	22	6.2%	24	3.1%
救急診療体制がない	5	1.4%	2	0.3%
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	34	9.6%	76	9.7%
退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏しい	35	9.9%	65	8.3%
住所地と入院先の距離があり支援体制をとりにくい	7	2.0%	13	1.7%
身体的機能や状態を原因としたADLの低下がある	64	18.0%	130	16.6%
身体合併症の程度が重いなど身体面のフォローが必要であり、地域での生活が困難	33	9.3%	69	8.8%
その他の退院阻害要因がある	17	4.8%	15	1.9%

大阪府精神科在院患者調査においては、「病状（主症状）が落ち着き、入院によらない形で治療ができるまで回復」されている方について、退院阻害要因の有無及び内容を調査しています。

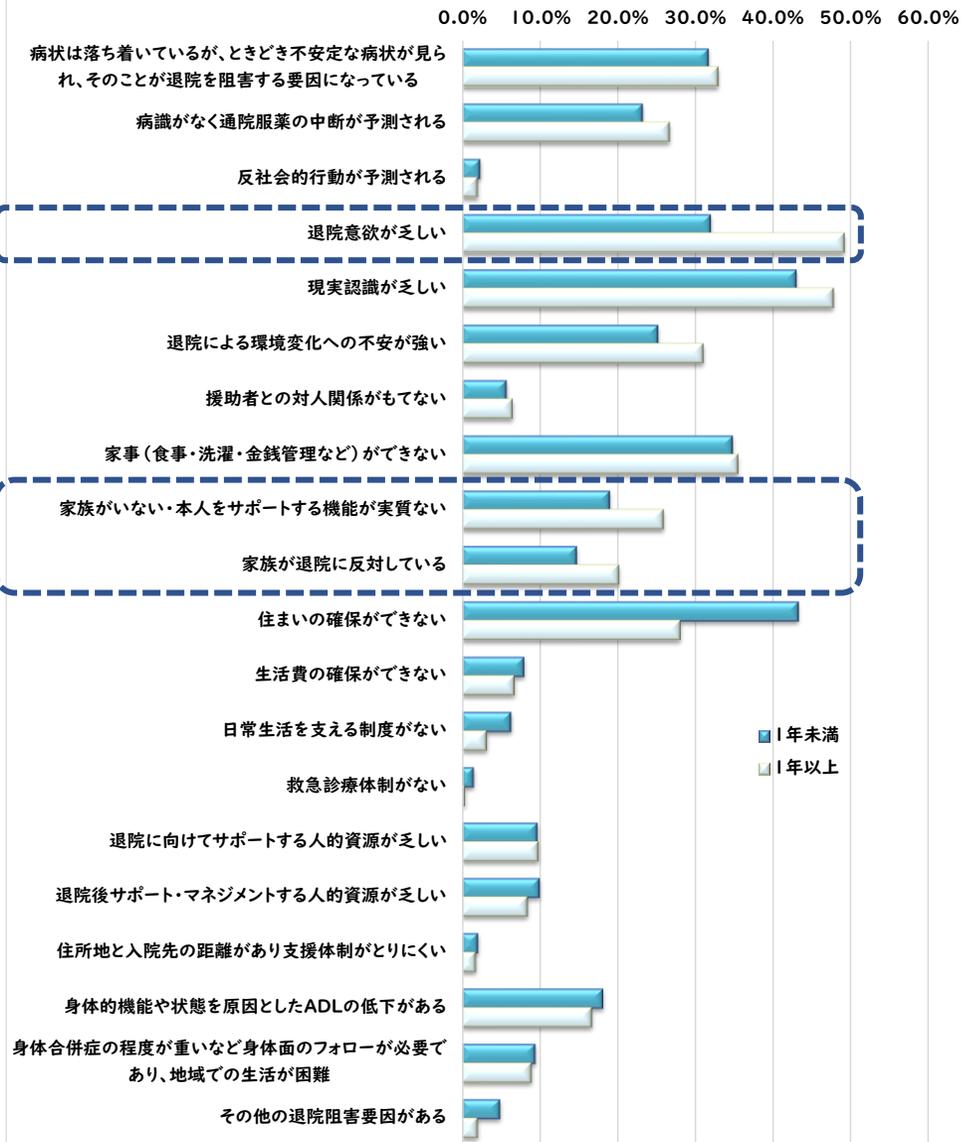
# 退院阻害要因(R6在院患者調査)

## ①大阪府

退院阻害要因(複数回答) 大阪府



退院阻害要因(複数回答) 大阪府 65歳以上



### 大阪府全体について

退院阻害要因については、65歳以上の場合、身体面の要因が65歳未満よりも割合が高くなる。

また65歳以上で長期入院の場合は、「退院意欲が乏しい」とともに家族に関する阻害要因の割合が1年未満に比べてやや高くなっている。

# 退院阻害要因(R6在院患者調査)

## ②泉州圏域 (入院時住所地)

### 年齢区分別

退院阻害要因	65歳未満		65歳以上	
退院阻害要因がある	68	81.9%	214	94.3%
退院阻害要因はない	15	18.1%	13	5.7%
<b>&lt;複数回答&gt;</b>				
割合には「退院阻害要因がある」それぞれの人数に対する割合を表示しています。				
病状は落ち着いているが、ときどき不安定な病状が見られ、そのことが退院を阻害する要因になっている	32	47.1%	85	39.7%
病識がなく通院服薬の中断が予測される	20	29.4%	56	26.2%
反社会的行動が予測される	8	11.8%	3	1.4%
退院意欲が乏しい	28	41.2%	80	37.4%
現実認識が乏しい	33	48.5%	101	47.2%
退院による環境変化への不安が強い	25	36.8%	69	32.2%
援助者との対人関係がもてない	9	13.2%	13	6.1%
家事（食事・洗濯・金銭管理など）ができない	16	23.5%	76	35.5%
家族がいない、本人をサポートする機能が実質な	16	23.5%	42	19.6%
家族から退院に反対がある	8	11.8%	47	22.0%
住まいの確保ができない	22	32.4%	57	26.6%
生活費の確保ができない	6	8.8%	18	8.4%
日常生活を支える制度がない	3	4.4%	6	2.8%
救急診療体制がない	0	0.0%	1	0.5%
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	4	5.9%	34	15.9%
退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏	4	5.9%	25	11.7%
住所地と入院先の距離があり支援体制をとりにく	0	0.0%	2	0.9%
身体的機能や状態を原因としたADLの低下がある	8	11.8%	40	18.7%
身体合併症の程度が重いなど身体面のフォローが必要であり、地域での生活が困難	4	5.9%	30	14.0%
その他の退院阻害要因がある	2	2.9%	6	2.8%

### 65歳以上

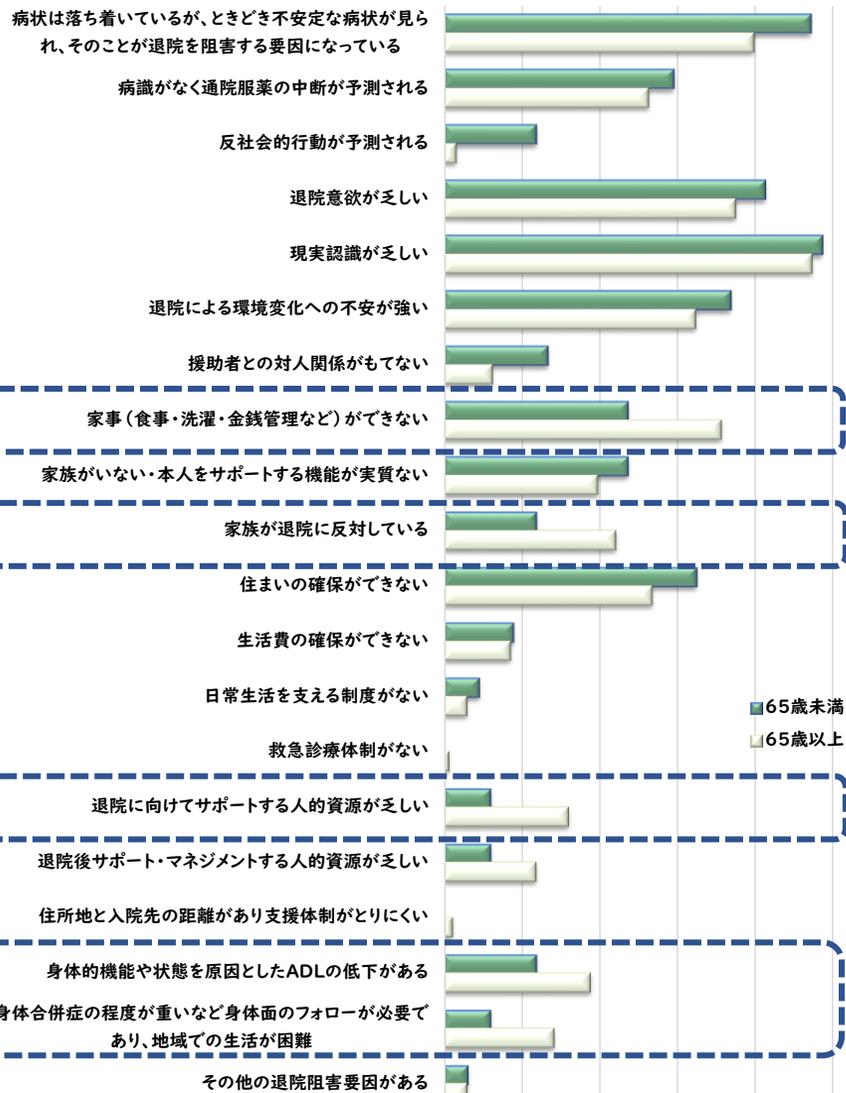
退院阻害要因	1年未満		1年以上	
退院阻害要因がある	73	90.1%	141	96.6%
退院阻害要因はない	8	9.9%	5	3.4%
<b>&lt;複数回答&gt;</b>				
割合には「退院阻害要因がある」それぞれの人数に対する割合を表示しています。				
病状は落ち着いているが、ときどき不安定な病状が見られ、そのことが退院を阻害する要因になっている	33	45.2%	52	36.9%
病識がなく通院服薬の中断が予測される	17	23.3%	39	27.7%
反社会的行動が予測される	1	1.4%	2	1.4%
退院意欲が乏しい	23	31.5%	57	40.4%
現実認識が乏しい	31	42.5%	70	49.6%
退院による環境変化への不安が強い	23	31.5%	46	32.6%
援助者との対人関係がもてない	2	2.7%	11	7.8%
家事（食事・洗濯・金銭管理など）ができない	27	37.0%	49	34.8%
家族がいない、本人をサポートする機能が実質な	10	13.7%	32	22.7%
家族から退院に反対がある	15	20.5%	32	22.7%
住まいの確保ができない	23	31.5%	34	24.1%
生活費の確保ができない	5	6.8%	13	9.2%
日常生活を支える制度がない	3	4.1%	3	2.1%
救急診療体制がない	1	1.4%	0	0.0%
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	7	9.6%	27	19.1%
退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏	11	15.1%	14	9.9%
住所地と入院先の距離があり支援体制をとりにく	1	1.4%	1	0.7%
身体的機能や状態を原因としたADLの低下がある	16	21.9%	24	17.0%
身体合併症の程度が重いなど身体面のフォローが必要であり、地域での生活が困難	11	15.1%	19	13.5%
その他の退院阻害要因がある	4	5.5%	2	1.4%

# 退院阻害要因(R6在院患者調査)

## ②泉州圏域 (入院時住所地)

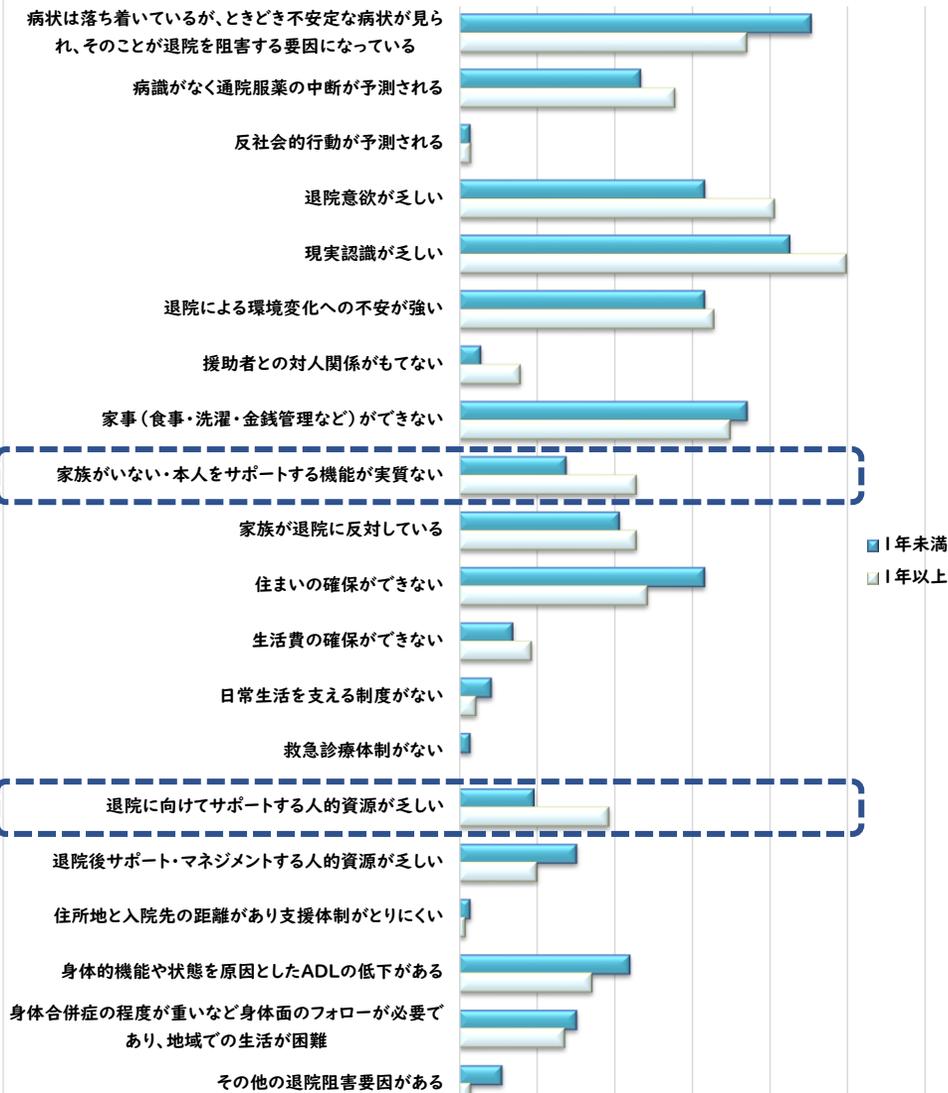
退院阻害要因(複数回答) 泉州圏域(入院時住所地)

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0%



退院阻害要因(複数回答) 泉州圏域(入院時住所地)

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0%



### 泉州圏域の住民(入院時住所地)について

65歳以上が顕著に高くなる阻害要因は身体面の要因のほか、「家事ができない」「家族が退院に反対している」、退院に向けてや退院後に「サポートする人的資源が乏しい」になっている。

65歳以上で長期入院している場合は、意欲等の低下とともに「家族がない」や「退院に向けてサポートする人的資源が乏しい」の割合が1年未満に比べて高くなる。

### 年齢区分別

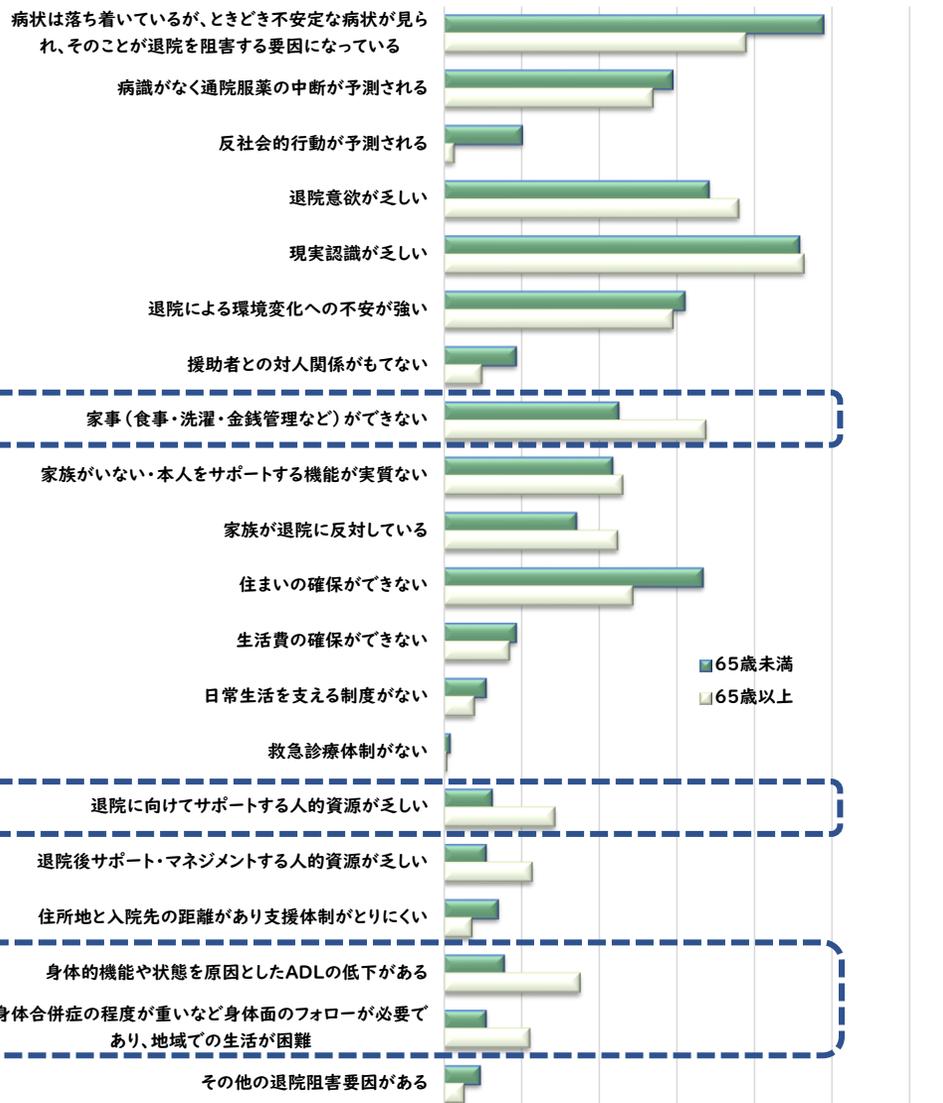
退院阻害要因	65歳未満		65歳以上	
	人数	割合	人数	割合
退院阻害要因がある	129	86.6%	309	92.0%
退院阻害要因はない	20	13.4%	27	8.0%
<b>&lt;複数回答&gt;</b>				
割合には「退院阻害要因がある」それぞれの人数に対する割合を表示しています。				
病状は落ち着いているが、ときどき不安定な病状が見られ、そのことが退院を阻害する要因になっている	63	48.8%	120	38.8%
病識がなく通院服薬の中断が予測される	38	29.5%	83	26.9%
反社会的行動が予測される	13	10.1%	4	1.3%
退院意欲が乏しい	44	34.1%	117	37.9%
現実認識が乏しい	59	45.7%	143	46.3%
退院による環境変化への不安が強い	40	31.0%	91	29.4%
援助者との対人関係がもてない	12	9.3%	15	4.9%
家事（食事・洗濯・金銭管理など）ができない	29	22.5%	104	33.7%
家族がいない、本人をサポートする機能が実質な	28	21.7%	71	23.0%
家族から退院に反対がある	22	17.1%	69	22.3%
住まいの確保ができない	43	33.3%	75	24.3%
生活費の確保ができない	12	9.3%	26	8.4%
日常生活を支える制度がない	7	5.4%	12	3.9%
救急診療体制がない	1	0.8%	1	0.3%
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	8	6.2%	44	14.2%
退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏	7	5.4%	35	11.3%
住所地と入院先の距離があり支援体制をとりにく	9	7.0%	11	3.6%
身体的機能や状態を原因としたADLの低下がある	10	7.8%	54	17.5%
身体合併症の程度が重いなど身体面のフォローが必要であり、地域での生活が困難	7	5.4%	34	11.0%
その他の退院阻害要因がある	6	4.7%	8	2.6%

### 65歳以上

退院阻害要因	1年未満		1年以上	
	人数	割合	人数	割合
退院阻害要因がある	93	84.5%	216	95.2%
退院阻害要因はない	16	14.5%	11	4.8%
<b>&lt;複数回答&gt;</b>				
割合には「退院阻害要因がある」それぞれの人数に対する割合を表示しています。				
病状は落ち着いているが、ときどき不安定な病状が見られ、そのことが退院を阻害する要因になっている	38	40.9%	82	38.0%
病識がなく通院服薬の中断が予測される	24	25.8%	59	27.3%
反社会的行動が予測される	1	1.1%	3	1.4%
退院意欲が乏しい	25	26.9%	92	42.6%
現実認識が乏しい	41	44.1%	102	47.2%
退院による環境変化への不安が強い	27	29.0%	64	29.6%
援助者との対人関係がもてない	3	3.2%	12	5.6%
家事（食事・洗濯・金銭管理など）ができない	29	31.2%	75	34.7%
家族がいない、本人をサポートする機能が実質な	14	15.1%	57	26.4%
家族から退院に反対がある	19	20.4%	50	23.1%
住まいの確保ができない	27	29.0%	48	22.2%
生活費の確保ができない	6	6.5%	20	9.3%
日常生活を支える制度がない	5	5.4%	7	3.2%
救急診療体制がない	1	1.1%	0	0.0%
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	9	9.7%	35	16.2%
退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏	15	16.1%	20	9.3%
住所地と入院先の距離があり支援体制をとりにく	5	5.4%	6	2.8%
身体的機能や状態を原因としたADLの低下がある	18	19.4%	36	16.7%
身体合併症の程度が重いなど身体面のフォローが必要であり、地域での生活が困難	12	12.9%	22	10.2%
その他の退院阻害要因がある	5	5.4%	3	1.4%

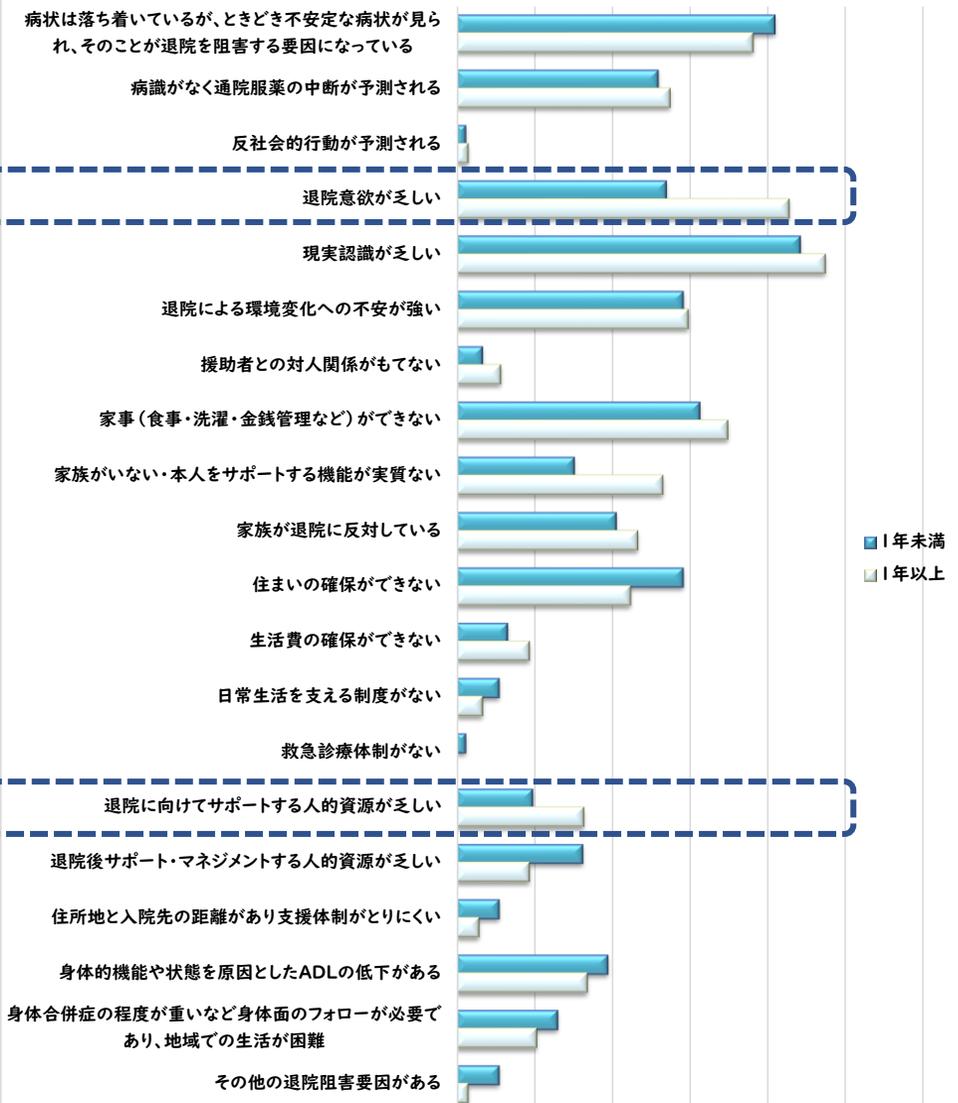
退院阻害要因(複数回答) 泉州圏域(病院所在地)

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0%



退院阻害要因(複数回答) 65歳以上 泉州圏域(病院所在地)

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0%



泉州圏域(病院所在地)について

65歳以上が顕著に高くなる阻害要因は身体面の要因のほか、「家事ができない」や、退院に向けてや退院後に「サポートする人的資源が乏しい」になっている。

65歳以上の長期入院の場合は、「退院意欲が乏しい」とともに、「退院に向けてサポートする人的資源が乏しい」の割合が、1年未満に比べて高くなる。

# 考察①

## 在院患者調査より(R3~R6調査)

- 大阪府全体で、1年以上の長期入院患者は減少傾向。
- 泉州圏域の住民の方は、コロナ禍以後、長期入院が増加。その後令和3年度から減少傾向に転じている。65歳以上の住民の方の令和1年から令和6年の長期入院減少率は約4%（大阪府全体では11.6%）入院患者の方も同傾向だが、減少率は少し高い。
- 泉州圏域の住民の方は、入院患者全体で65歳以上の方が約70%を占め、大阪府より約10ポイント高くなっている。

## 退院患者調査より(R5調査)

- 退院患者調査においては、大阪府全体で1年以上入院していた患者のうち、約31%が死亡、約29%が他科への転院、自宅や施設等への地域移行は約32%であった。特に自宅への退院は、約9%と、1割を下回っていた。
- 1年以上入院していた泉州圏域の住民の方・泉州圏域の病院の入院患者の方ともに、約48%が死亡退院だった。また、泉州圏域の住民の方も入院患者も、65歳以上の方が自宅へ退院する割合は約2%となっている。
- 退院患者調査期間（3か月）の間に、同じ病院に再入院した人は、自宅に退院したか、他科へ転院した人が多い。
- 特に1年以上入院していた65歳以上の方が再入院するのは、おおむね他科へ転院した人であった。長期に入院されていた場合でも、短期間の転院により入院期間がリセットされている場合がある。
- 泉州圏域では、1年以上入院していた方の退院先は、住民も入院患者もほぼ他科へ転院した人であった。

### 退院阻害要因 (R6在院患者調査) より

- 在院患者調査における退院阻害要因に関して、大阪府全体を通じて、65歳以上の場合、身体面の阻害要因の割合が65歳未満より顕著に高くなる。  
65歳以上で長期入院の場合の阻害要因では、「退院意欲が乏しい」とともに、家族に関する阻害要因（家族がサポートできない。家族が退院に反対している など）の割合が1年未満に比べてやや高くなる。
- 泉州圏域の住民では、65歳以上が高くなる阻害要因は身体面の要因のほか、「家事ができない」「家族が退院に反対している」、退院に向けてや退院後に「サポートする人的資源が乏しい」になっている。  
また、65歳以上で長期入院している場合は、「退院に向けてサポートする人的資源が乏しい」の割合が高くなる。
- 泉州圏域の病院の入院患者では、65歳以上が高くなる阻害要因は身体面の要因のほか、「家事ができない」や、退院に向けてや退院後に「サポートする人的資源が乏しい」になっている。  
また、65歳以上の長期入院の場合は、「退院意欲が乏しい」とともに、「退院に向けてサポートする人的資源が乏しい」の割合が、高くなる。
- 総じて、65歳以上になると、身体面の阻害要因の割合が高くなる。  
また、高齢期で入院が長期化すると、「家族の反対」や「サポートする家族や支援者がいない」などが阻害要因になりがちである。
- 泉州圏域では、大阪府全体に比べて高齢期の方の「家事ができない」ことが阻害要因になりがちであった。